

編 集 後 記

酷寒の二月が訪れて来ました。北の方の讀者の病院は、今年のように大雪の冬では、さぞかし入院患者の御世話に御苦勞が多いこととお察し致します。是非われわれの参考にその御苦心の御様子をお聞かせ下さい。

國際情勢が刻々と變化して、我らの周圍の渦巻が段々身近かに感ぜられるようになって來ましたが、我ら病人人は病人の爲にもひたすら「平和であれかし」と祈りませう。

× ×
本月號には卷頭に、G. H. Q. の Dr. Maritoff の玉稿を掲載させて頂くことが出来ました。Doctor は女醫さんで、昨年迄は東京民事部の醫務課長をしておられましたが、現在は Dr. Molt n の後を繼いで、Johnson 大佐の補佐をしておられます。病院管理については、高い見識と廣い知識を持つて居られ、東京附近の病院長先生方は何時も指導をして頂いて居られました。現在の地位になられてからは、努めて全國の病院長先生と御會い出来ることを希望されておられますから、地方で病院の會合をなさるときには、豫め御連絡になれば、特別の御用事のないときには恐らく御出席を承諾されるのではないかと思います。日本の病院が改善され進歩することに非常に關心と熱意を持つておられます。この玉稿もわれわれに示唆を與えることが少なくないことと信じます。

× ×
醫藥分業の問題で、臨時診療報酬調査會が醫療費について澤山の研究をして來ましたが、橋本、加倉井兩技官の食費の研究も、兩氏が調査會の仕事で研究されたものから生み出した業績の一つで、今後も醫療費の原價計算要綱を立案した兩氏が、いろいろ病の費用について業績を發表されることを、讀者と共に期待し度いものです。

× ×
今月は座談會として再び看護制度の問題をとり上げました。出席の方々は、日本の看護婦の向上を望み且つは日本の現状と遊離しない實際に日本の病院の爲になる看護婦制度を希望しておられる先生方ばかりで、建設的な意見を交換して頂きました。唯今參衆兩議會の厚生委員會で看護制度の問題が取上げられ、新制度に批判が加えられています。この機會に以上の先生方が、日本の進歩的病院長の代表になつて意見を纏められたことは大いに意義があることと思います。

× ×
棚橋女史という病院管理界に新人が現われました。女史は女子醫大を卒業して一醫師として、一學究の徒として病院に働き、病院の機能には、何うしても高い intuígence を持つた婦人の活躍が必要であることを痛感せられまして、自ら聖路加病院に於て看護婦の働きを體驗され、女醫の見地からこれを理解しようと努力されましたが、本號に寄稿されたものはその體驗の一端です。尙女史は、醫療社會事業を續いて體驗され、現在病院管理研修所の研修科で研究中ですが、今後も女史の特異な立場から研究されたいろいろ業績を御發表になることでせう。

× ×
吉田は病院醫師のあり方について記述を進めておりますが、次號でこの稿を終ります。この問題は、病院本來の機能の中核をなす問題ですから、御同様に皆さんの熱心な御研究を期待します。

最後に、守屋編集委員が、アメリカの病院管理を Tr. Mac Each r n について研究され、無事1月5日に歸京されました。氏の今後の活躍を御期待下さい。(編者)